

主な感染症一覧表

※登園停止期間は保育所における感染症ガイドラインに準ずる

2017. 4. 1

	病名	主な症状	感染経路	潜伏期	感染期間	登園停止期間の目安	備考
第 一 種	インフルエンザ	高熱(38~40℃) 関節や筋肉の痛み 全身がだるい 咳・鼻水・のどの痛み	飛沫 接触	1~4日	症状が出る 1日前~発症 後3日程度が 感染力強い	発症後5日 かつ 解熱した後3日 を経過するまで	肺炎や脳症などの 合併症に注意。 発熱や意識の状態 に気をつける。
	百日咳	風邪様症状から始まり、1~2週で特有の コンコンという短く激 しい咳が続く	飛沫 接触	7~10日 (5~ 12日)	感染力は発症 後2週間以内 が強い	特有の咳がな くなるか、5日 間の抗生物質 治療終了まで	生後6か月以内の児は 合併症(肺炎)に注意。 抗菌薬治療開始後7日 で感染力はなくなる。
	麻疹 (はしか)	高熱、咳、鼻水、充血 一時解熱し、頬粘膜に 小斑点、再発熱し発疹	空気 飛沫 接触	8~12日 (7~ 18日)	発疹が出る 2日前~ 出た後4日	解熱した後 3日を経過 するまで	熱が下がってくる頃 口の頬の内側に白い 小斑点ができる。
第 二 種	結核	発熱・咳・喀痰 喀血・疲労・体重減少	空気 飛沫 接触	2年以内 (特に6か 月以内)	喀痰の塗抹 検査が陽性 の間	医師が感染の 恐れがないと 認めるまで	成人結核患者から感 染するが多い。
	流行性 耳下腺炎 (おたふく かぜ)	発熱、片側ないし両側 の耳の下の腫れと痛み (押すと痛い)	飛沫 接触	16~18日 (12~ 25日)	耳下腺の腫 れる7日前 ~腫れた後 9日	腫脹後5日を 経過し、かつ 全身状態が良 好になるまで	好発年齢は2~7歳。 難聴(片側性が多い)、 無菌性髄膜炎、急性 脳炎の合併症に注意。
	風疹 (三日はしか)	38℃前後の発熱 発疹(淡紅色、小発疹) リンパ節の腫れ	飛沫 接触	16~18日 (14~ 23日)	発疹が出る 7日前~出た 後7日	発疹が消える まで	妊娠前期の感染は児 の白内障、先天性心 疾患等の危険あり。
	水痘 (水ぼうそう)	赤い発疹→丘疹(ふ くらんだ発疹)→水疱 →かさぶたと、発疹が 変化していく	空気 飛沫 接触	2~3週	発疹が出る1 から2日前~ 全ての発疹が かさぶたに なるまで	全ての発疹 がかさぶたに なるまで	妊婦の感染に注意。 接触後72時間以内に ワクチン接種すること で発症の予防、症状 の軽減が期待できる。
	咽頭結膜熱 (プール熱)	38~40℃の発熱 のどの痛み・目やに 結膜の充血	飛沫 接触	2~14日	発症後咽頭 から2週、 便から数週	主な症状がな くなって2日を 経過するまで	アデノウイルスによる 感染症のため、アル コールが効きにくい。
	流行性 角結膜炎 (はやり目)	目の異物感・充血・ま ぶたの腫れ・目やに 瞳孔に点状の濁り	接触 飛沫	2~14日	発症後2週	感染の恐れが なくなるまで (医師の判断)	アデノウイルスは1か月 程度排出されるので、 手洗いを励行する。
	急性出血性 結膜炎	目の激しい痛み 結膜充血 異物感・涙が出る	接触 飛沫	1~3日	発症後咽頭 から1~2週、 便から数週	感染の恐れが なくなるまで (医師の判断)	6~12か月後に四肢 (手足)に運動麻痺を 合併することがある。
第 三 種	腸管出血性 大腸菌感染症 (O-157他)	激しい腹痛 水様性の下痢・血便	経口 接触	3~4日 (1~ 8日)	便中に菌が 排出されて いる間	検便2回とも菌陰 性が確認されるま で(医師の判断)	発症後7日目頃 溶血性尿毒症症候群 を起こすことがある。
	ヘルパン ギーナ	高熱(38~40℃) 咽頭発赤・のどの奥に 白い小さな水疱疹 のどの痛み	飛沫 接触	3~6日	発症後唾液 から1週未満、 便から数週	発熱がなく、普段 の食事ができれ ば可 (医師の判断)	感染力は発症後2日 くらいまでが最も強い が便中には約4週間 ウイルスが排泄される。
他 の 伝 染 病	溶連菌感染症	発熱(39℃前後) 発疹・扁桃発赤 扁桃が腫れる 咽頭痛・いちご舌	飛沫 接触	2~5日 (とびひ では7~ 10日)	抗菌薬治療 開始後24時 間を経過す るまで	抗菌薬治療開始 後24~48時間 を経過するまで (医師の判断)	腎機能障害を合併す ることがあるので、抗生 剤は必ず最後まで飲み きり、尿検査を受ける。
	マイコ プラズマ	咳、発熱、頭痛などの 風邪様症状 しつこい咳が3~4週 続くこともある	飛沫	2~3週 (1~ 4週)	発症時が ピークで、 その後4~6 週続く	発熱や激しい咳 が治まり全身状 態がよくなるまで (医師の判断)	抗生剤の治療が5日間 くらいでは再燃する場 合があるので、10日間 くらい治療を行う。
	伝染性紅斑 (リンゴ病)	風邪様症状 両頬の赤み、手足に 網目状の紅斑	飛沫	4~14日 (4~ 21日)	風邪様症状 出現~顔の発 疹出現まで	全身状態がよけ れば可 (医師の判断)	妊婦が感染すると流産 の危険があるため注意 する。
	手足口病	軽い発熱(2~3日) 小さな水疱が口の中 や手足にできる	飛沫 接触	3~5日	のど:1~2週 便:3~4週	発熱がなく、普段 の食事ができれば 可(医師の判断)	まれに髄膜炎を合併す ることもあるので、高熱 に注意する。
	伝染性膿痂疹 (とびひ)	水疱ができる→破れ て膿が出る かゆみ	接触	2~10日 (長期の 場合あり)	かさぶたが 治るまで	通常は出席停止 の必要なし (医師の判断)	かさぶたからも感染 する場合がありますので 注意。
含 む V	感染性胃腸炎	突然の嘔吐・下痢 ロタウイルスでは米 のとぎ汁様の水様便	経口 接触	ノロ:半日 ~2日、ロ タ:1~3日	主に症状の ある期間	症状がなく、普段 の食事ができるま で(医師の判断)	主な原因はロタウイル ス、ノロウイルス、アデ ノウイルスなど